

演 題：牛の小腸

○辻泰司、内田真輔、大西栄二、今川哲

動物名：牛 品 種：ホルスタイン種 性 別：去勢 年 齢：18ヶ月

病 歴：なし

生体所見：健康畜として搬入され、異常は認められなかった。

内臓所見：小腸漿膜面に長さ1～5mmの白色結節を多数認め、結節の辺縁部に赤色付着物を認めた。

小腸の管壁に軽度の肥厚が認められたが、粘膜面に著変は認められなかった。
左右腎臓に萎縮が認められた。

組織所見：肉眼的に白色小結節として観察された部位では、漿膜面の直下の結合組織間に好酸球や赤血球が充満した毛細血管がみられ、その基部では血管が増生した結合組織にリンパ球や好酸球の浸潤を伴う像が観察された。

筋層と漿膜の間の結合組織には、小血管の増生や小円形細胞の浸潤が認められた。

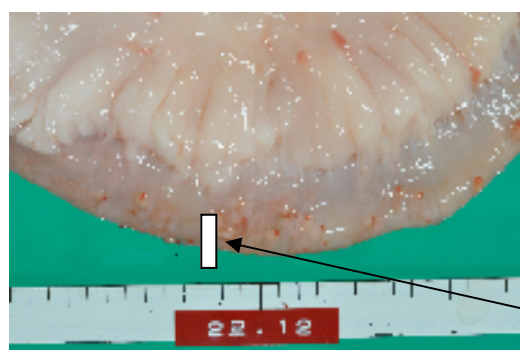
白色小結節近位の漿膜面には、反応性に中皮細胞が過形成を呈する像がみられた。

粘膜固有層には、主に好酸球及びリンパ球の浸出がみられたが、粘膜筋板や粘膜下組織への浸潤は認められなかった。

白色結節を圧平した新鮮標本、スタンプのギムザ染色標本及びパラフィン包埋切片のPAS反応では寄生虫性と判断する所見は得られなかった。

固定方法：15%中性緩衝ホルマリン液

切り出し部位（図示）



切り出し部位

行政処分：一部廃棄

組織診断名：多発性結節性好酸球性小腸漿膜炎

疾病診断名：好酸球性小腸炎